

8 安全・安心なあおもり産品づくり

「日本一健康な土づくり運動」の推進

現 状

- 消費者、市場・流通関係者から、安全・安心でおいしい県産農産物の供給力の拡大を求める声が強まっています。
- 安全・安心な県産農産物を安定的に生産・供給できる体制を整備するため、市町村、農業団体と一体となり、農業生産の基本である「健康な土づくり」に全ての農業者が取り組むことを目指す「日本一健康な土づくり運動」を強力に展開しています。

最近の特徴的な取組

- 「あおもり土づくりの匠」による実践指導
- 堆肥や稲わら等の有機質資源の利用促進
- 環境保全型農業直接支払制度を活用した環境にやさしい農業の取組拡大
- 消費者に対する土づくりや環境にやさしい農業の情報発信
- 新規就農者等を対象とした「エコ農業チャレンジ塾」の開催

今後の推進方向

<農業生産の基本となる健康な土づくりの推進とレベルアップ>

「あおもり土づくりの匠」による実践指導の実施、堆肥や稲わらなどの有機質資源の利用促進と総合土壌診断に基づく土づくりの実践、地域資源を活用した地域の土づくり体制の構築を目指します。

■「あおもり土づくりの匠」の認定と実践指導

令和3年度5名認定（累計77名）

■有機質資源の利用促進と総合土壌診断に基づく土づくりの実践

- ・堆肥展示会等による啓発、指導者対象の土づくり研修会の開催
- ・稲わら収集技術体系マニュアルを活用した稲わら収集事業者の育成・確保



「あおもり土づくりの匠」認定証書授与式



稲わら流通促進会議

<健康な土づくりを基本とした環境にやさしい農業の拡大>

国の環境保全型農業直接支払制度の活用や環境保全に効果の高い事例及びIPM（総合的病害虫・雑草管理）実践指標などを活用することにより、環境にやさしい農業の取組拡大を図ります。

■環境保全型農業直接支払交付金取組面積の拡大

環境保全型農業直接支払交付金取組面積（単位：ha）

平成28年	29	30	令和元	2	3
814	918	788	846	815	851



リビングマルチの利用
（ながいものうね間に大麦をは種）

■環境にやさしい農業に関わる認証制度等の活用

有機農産物

作付前2年（多年生作物は3年）以上化学合成農薬と化学肥料を使用しないほ場において、基本的に農薬と化学肥料を使用しないで栽培された農産物



青森クリーンライス

J A全農あおもりが示す「青森クリーンライス栽培基準」に基づき栽培された米



青森県特別栽培農産物

化学合成農薬と化学肥料の使用をその地域の一般的な栽培方法と比べて半分以下に低減し栽培された農産物で、県が認証



環境にやさしい農業の主な取組面積 (単位: ha)

区分	平成18年	27	28	29	30	令和元	2
青森県特別栽培農産物の栽培面積	525	412	400	440	436	463	450
有機JAS認証面積	264	305	333	301	370	362	—

■IPM実践指標の導入促進

IPM実践指標の作成、技術指導者対象の研修会の開催

IPM実践指標の作成品目	施設トマト（夏秋）、ながいも、水稲、りんご、なし、もも、大豆、ぶどう、施設いちご
--------------	--

<消費者等から信頼される農産物の供給と情報発信の強化>

GAP（農業生産工程管理）の取組拡大を図るほか、健康な土づくりなどについての消費者理解を深めるための情報発信を行います。

■GAPの普及拡大

- ・ 農業者を対象としたGAP研修会の開催や指導の実施
- ・ 農業高校のGAP認証の新規取得や維持・更新の審査費用等を支援



農業者のためのGAP推進研修

県内におけるGAP認証取得産地数の推移 (単位: 産地)

	平成26年	27	28	29	30	令和元年	2
GLOBALG.A.P.	2	6	9	14	24	23	22
ASIAGAP					1	1	1
JGAP	6	7	7	6	4	11	12
計	8	13	16	20	29	35	35

■土づくりや環境にやさしい農業のPR

- ・ 農産物直売所や量販店などエコ農産物販売協力店での情報発信
- ・ 新規就農者等を対象としたエコ農業チャレンジ塾の開催



エコ農産物販売協力店でのPR



エコ農業チャレンジ塾（りんごコース）